

オルタナティブ・ツーリズムの現場から

映画の魅力を活かしたツーリズム

尾道（広島県尾道市）



急な坂に狭い石畳の小路は、尾道を代表する風景

ナビゲーター
尾道市観光文化課
観光企画振興係
Onomichi City Office
Tourism&culture section
Tourism planning & promoting

数多くの映画の舞台となった街

「Location Japan」という雑誌がある。映画やドラマの舞台になった場所を紹介する雑誌だが、こうした本が成り立つほど、現在、日本の映画界は活況を呈しており、また、その舞台を追体験したい人が増えているようだ。

こうした流れを作ったのが、かつては小津安二郎の「東京物語」、そして近年では大林宣彦監督の諸作品の舞台となった尾道であることは間違いない。

「街を挙げて、映画の撮影に協力する市民意識の高さがあります」と、今回のナビゲーターである尾道市観光文化課の貞重裕樹氏は言う。確かに街を挙げてロケに協力しているのはもちろん、市の中心部には、



映画「転校生」で、男女の心と身体が入れ替わるきっかけになった階段があるのは「御袖天満宮」の参道



「時をかける少女」で、主演の原田知世さんがタイムスリップする時に逆回りする印象的だった大きな時計。今は時計屋の看板になっており、正確に時を刻んで



高台から街を見下ろすと、黒い瓦の家が並ぶ。その向こうには尾道水道が見え、行き来する船舶、ドックの巨大なクレーンなどが一望できる



大林映画でも、しばしば光景の中に出てくる渡船は、尾道市民に欠かせない交通手段



映画だけでなく文学の街でもある尾道。林芙美子など尾道ゆかりの人々の銅像や石碑も、街のあちこちに設けられ



尾道で映画を撮った小津安二郎監督や新藤兼人監督の作品を中心に映画の資料が集められた「おのみち映画資料館」は、明治時代に軒を連ねた木造倉庫を改修して造られたもの

尾道市観光文化課観光企画振興係

【連絡先】

〒722-8501 尾道市久保1丁目15番1号
TEL 0848(25)7184 FAX 0848(25)7293
URL <http://www.city.onomichi.hiroshima.jp/>

あちこちに映画のロケ先が残っており、また、俳優や各界の著名人の足形とサインがモニュメントとして多数置かれているなど、街全体が壮大な撮影所といった趣がある。

今回の取材では、閉鎖された「日立造船向島西工場ドック」に、戦後六〇周年ということで二〇〇五年二月に公開された「男たちの大和／＼YAMATO」で使われた原寸大戦艦大和のセットが残されて、それを見学するために大勢の観光客が訪れていた。「二〇〇六年一月末現在で、約五四十万人もの観光客が訪れています」と貞重氏。

「大和」見学の観光客が及ぼす経済効果は約二〇億円と試算されていますし、その他にも、映画を撮影するためにセットを作成したことに加え、撮影の間に滞在するスタッフも多かったため、実際の経済効果はさらに大きくなります」。さらに、地元の人たちが映画に協力するために「コミュニティづくりを積極的に進めているなど街の活性化にもつながっており、映画を足がかりにしたツーリズムの可能性を感じさせる。

しかし、同じ場面が何度も使えるわけではない。それだけに、今後は、尾道の新しい魅力を積極的に発信していかないといけないことから、二〇〇三年一月に立ち上げた『おのみちフィルム・コミッション』が、新しい映画のロケの誘致を積極的に行っているところ。

(文責・CEL編集部)

CEL